

通報・消火・避難訓練マニュアル

飯塚地区消防本部

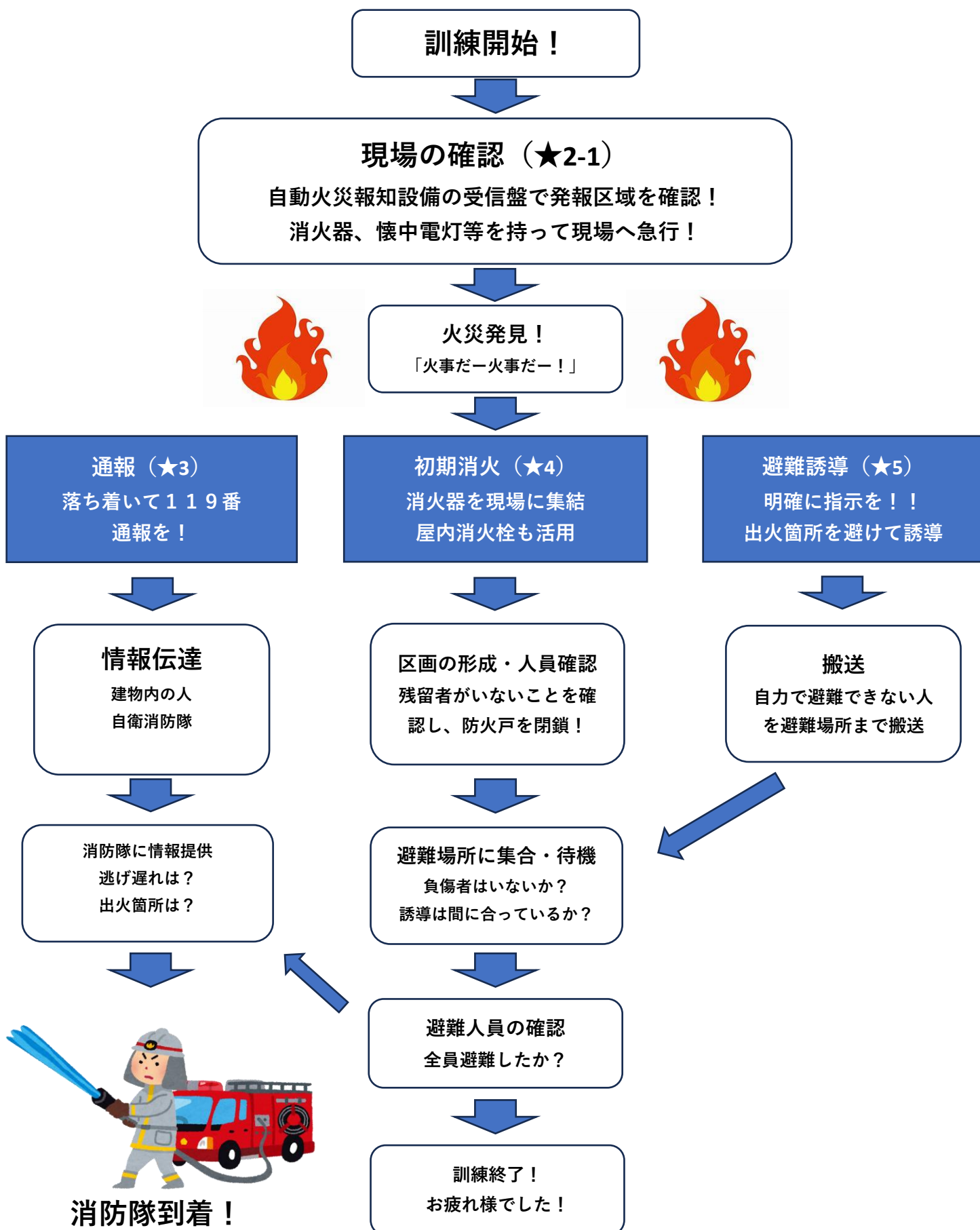
通報・消火・避難訓練実施マニュアル

目 次

- ★ 1 出火点の設定と火災の覚知
- ★ 2－1 現場確認の要領（自動火災報知設備等による覚知）
- ★ 2－2 現場確認の要領（人が発見した場合）
- ★ 3 通報・情報伝達
- ★ 4 初期消火
- ★ 5 避難誘導
- ★ 6 区画の形成と避難人員の確認
- ★ 7 消防隊への情報提供
- ★ 8 訓練実施結果の検証
- 付 属 119カード



通報・消火・避難訓練実施マニュアル



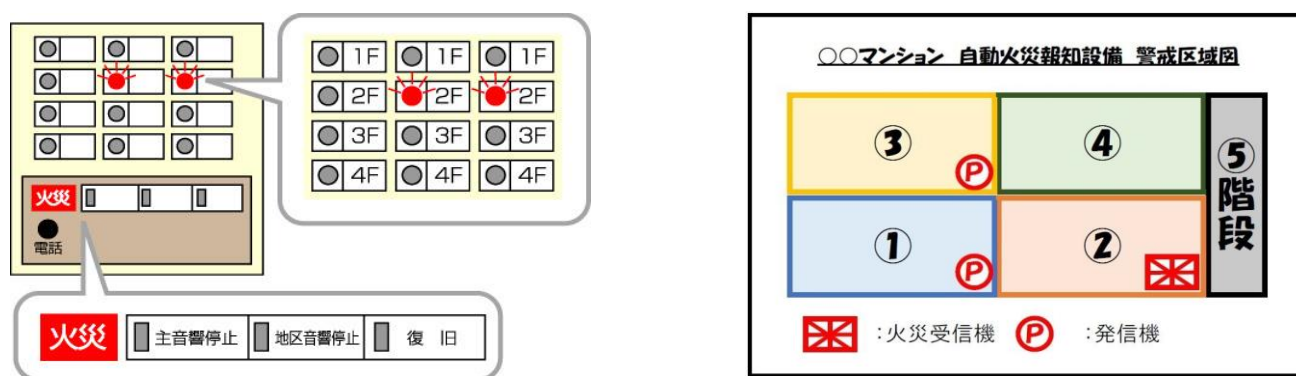
★1 出火点の設定と火災の覚知

出火箇所を設定し、目印を表示します。

火災の覚知方法としては、自動火災報知設備によるベル鳴動やスプリンクラー設備の起動など機械により覚知する場合と、人が発見することにより覚知する場合の2つが考えられます。覚知した方法により訓練の流れが変わってきますので、訓練の都度実施方法を変えてみると良いでしょう。

★2-1 現場確認の要領（自動火災報知設備等による覚知）

①発信機を押すなどの方法で実際に自動火災報知設備の感知器を作動させ、非常ベルを鳴らします。設備の使用方法がよく分からない場合は、消防設備業者への立ち会いを求めてもよいでしょう。ベルを鳴らさない場合は、指揮者による「訓練開始！」の合図で、感知器が作動したものとして行動します。



自動火災報知設備の受信盤と警戒区域図により火災が発生した場所を確認します。

②自動火災報知設備の受信盤により、発報した警戒区域を確認後、現場に急行し火災かどうか確認します。確認の際は、初期消火への対応も考え、念のため身近にある消火器を1本持参して下さい。

③自動火災報知設備の受信盤が設置してある場所に、対応できる人員が複数いる場合は、連絡のための要員を1人を残し現場に急行します。現場に急行する人は受信盤で覚知した人以外でも構いません。

④現場に到着し火災を発見した場合は、「火事だー！！」と大きな声で2回以上叫びます。

⑤火災であることを確認したら、職員詰所や宿直室へ状況を連絡し、連絡を受けた職員が消防機関に119番通報します。確認後は、直ちに初期消火活動を行います。数人で確認に行けば連絡すると同時に、初期消火活動に移れます。P型1級の発信機などは、通話ジャックに携帯用送受話器を差し込むことで、受信機と通話することができ、防災センター等へ火災発生を連絡をいれることができます。

★ 2 - 2 現場確認の要領（人が発見した場合）

①「火事だー！！」と大きな声で2回以上叫びます。

②職員詰所や宿直室等へ状況を連絡し、連絡を受けた職員が消防機関に119番通報します。また、近くの非常警報設備の発信機を押して非常ベルを鳴らすなどの方法で、火災であることを建物の中にいる人に知らせます。その後、近くにある消火器等を活用し初期消火に移ります。現場に複数の人がいる場合は、初期消火・避難誘導を状況に応じて実施します。

★ 3 通報・情報伝達（通報・非常放送の例）

①現場確認者等から火災発生の知らせを受けた場合は、直ちに消防機関への通報を行います。

訓練時には、消防計画上、通報を担当することとされている人が模擬通報を行います。訓練用あるいは内線電話等を利用し、通報者と消防機関の役を分担して実施する。また、訓練において実際に119番通報する場合は、第一声目に訓練電話であることをお伝え下さい。

119番通報の例

通報者：119番を発信する

消防：「はい、119番消防です。火事ですか？救急ですか？」

通報者：「火事です」

消防：「場所はどこですか？」

通報者：「〇〇市〇〇町〇〇丁目〇番〇号 〇〇〇〇です」

消防：「その建物は何階建てですか？燃えているところは何階ですか？」

通報者：「〇階建ての〇階が燃えてます」

消防：「近くに目標になる建物がありますか？」

通報者：「〇〇〇〇があります（〇〇〇〇の北側です）」

消防：「何が燃えているかわかりますか？」

通報者：「〇〇が燃えています」

消防：「逃げ遅れた人はいませんか？」

通報者：「〇名が逃げ遅れています」

消防：「あなたのお名前と連絡先を教えてください」

通報者：「〇〇です。電話は〇〇-〇〇〇〇です」

消防：「わかりました。すぐに行きます」



この内容はゆっくり話して約80秒ですが、火災時はパニックとなり、落ち着いて説明出来ず、時間がかかると思われます。また、消防計画書に定めた担当者ではなく、第一発見者が担当になります。

誰もが説明できるよう、朝の朝礼の際等に、定期的に全員が口に出して練習することをおすすめします。電話の近くに紙に書いて貼るのも良し、携帯電話を使用する事も想定してください。

当消防本部で作成した「119カード」を印刷し、各事業所で活用下さい。

②119番への通報が終了したら、次は建物の中にいる人に火災が発生したことを知らせます。

非常放送設備がある場合は活用しましょう。特に大規模な建物では、火災の状況に応じて出火階から出火直上階へと、優先順位をつけて順次伝達していきます。また、ホテル等宿泊客がいる場合は（特に出火階）各部屋ごとに伝達して回ることも重要です。（このケースでは避難誘導も同時に行います）

また、百貨店等、沢山の人が建物の中にいる場合は、パニック状態になることも考えられますので、不安を煽らないようできるだけ落ち着いた口調で放送を行います。放送設備がない小規模な施設では、拡声器等を利用してできるだけ早く伝達します。

放送文の例

「お客様にお知らせ致します。〇階の〇〇で火災が発生しました。係員の指示に従って避難して下さい。エレベーターは使用できません。

③夜間等で責任者が不在の場合は連絡を入れ火災発生 の報告をし、必要な指示を仰ぎます。

④自衛消防隊に消火活動に入るよう伝達します。放送用の暗号を決めている場合は暗号放送を行います。

放送文の例

「こちらは（防災センター・自衛消防隊長など）です。只今、〇階〇〇付近で火災が発生しました。〇階と〇〇の初期消火班は直ちに消火作業を行え。避難誘導班は避難配置につけ」

「お客様は係員の指示に従って避難して下さい。エレベーターは使用しないで下さい」

非常放送設備も119番通報の例と同様です！消防訓練の際、消防設備業者が手伝うことがありますが、火災時は各自が使用することを理解し、全ての消防設備の維持管理と操作活用ができるように訓練に取り組みましょう。

～補足情報～

・通報では、消防職員が尋ねることに落ち着いて答えてください。また、いざというときに住所、電話番号等が答えられないことも考えられますので、電話機の前や、目に付きやすい所に必要事項を記入した紙を貼っておく等の準備をしておきましょう。

・実際の火災の場合は通報の時点ではっきりしなかった情報が分かれば第2報を入れてください。（「消火器で消火した」「逃げ遅れていた人を避難させた」等）

・大規模な建物で防災センターを設置している場合は、そこで勤務している人（防災センター要員）に対する講習が実施されています。また、再講習の受講を要する防火管理者は、5年以内に講習を受けなければいけません。

★4 初期消火

◎消火器による初期消火活動

①火災の発生を覚知した消火班は、出火箇所に消火器を集結し初期消火活動を行います。（火元付近のもの、別の階から持参したもの等）

②消火器の操作は、まず安全ピンを抜き、ホースを火元に向け、レバーを強く握り、火点に向かって消火薬剤を放射します。手前から火元に向けて、ほうきで掃くように操作します。訓練では約20秒程度消火体勢を維持しましょう。

<<粉末消火器の使い方>>



◎屋内消火栓設備による消火活動

①1号消火栓の場合（放水する人と消火栓側のバルブを操作する人の2人が必要です）ホースにねじれが無いように確認しながら延長し、出火箇所に向かいます。出火箇所に到着し、放水の準備ができたなら「放水始め」の合図を行いバルブを開放します。発信機のボタンを押し、消火栓ポンプを起動します。



②2号消火栓の場合、操作は1人でできます。バルブを開放すると消火栓ポンプが起動します。ホースを持ちながら出火箇所に向かい、放水準備ができたならホースノズルのコックを開き放水します。



～補足情報～

- ・実際の火災の場合は出火箇所の直近にいる人が消火活動を行う可能性が高いため、消火班に限らず、全員が消火器等の消防用設備等の使用方法を熟知しておくことが大切です。
- ・消火器による初期消火時間の目安として、炎が天井に燃え移る前までとし、それまでに消火できない場合は避難を開始します。（消火活動実施前に避難経路を確保しておくこと。）
- ・耐火造の建築物の場合、木造建物に比べると気密性が高いため、窓や扉等の開口部が閉鎖されていると、空気の供給がないため、炎はくすぶり、燃焼がやや緩慢になる傾向があります。しかし、時間の経過と共に可燃性ガスが充満してくるため、不用意に開口部を開けると新鮮な空気が流入し、燃焼に必要な酸素が供給され、爆発的な燃焼を起こすこともあるので注意を要します。消火活動のため扉を開ける場合は、絶対に開口部の正面に立たないことが大切です。

★5 避難誘導

避難誘導の要領は、建物の用途、規模構造等により変わっていくため、一律にこうしなければならないとは言えない面もあります。以下に避難誘導の際、考慮しておきたい事項を列記していますので、各事業所の様態に応じた避難誘導訓練を実施して下さい。

1 避難経路の選択

建物形態の違いで避難経路も変わってきます。比較的規模が大きく、耐火構造で避難上有効なバルコニーや屋外避難階段等がある建物、屋内階段しかない建物など様々です。日頃からあらゆる出火箇所を想定し、それぞれに安全な経路を確認しておくことが必要です。避難の際は出火箇所を避け、煙等の被害を被る恐れがない経路を選択しましょう。出火箇所付近の階段は使えなくなる可能性がありますので、2つ以上の経路を想定することが重要です。

また、どの避難施設を使用するかも重要です。避難経路はできるだけ安全に「地上」まで避難できる施設を選択しましょう。エレベーターは火災による停電で停止する可能性があるため使用しないで下さい。

避難施設の種類としては以下のようなものがあり、訓練の想定に応じ最も適切な施設を使用して下さい。

屋外避難階段

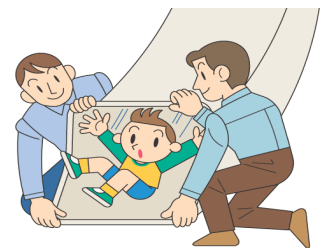
外気にさらされているため火災による煙の影響が少なく安全性が最も高い。

屋内避難階段

防火戸等がきちんと作動していれば縦穴区画が形成される（階段室内に煙が拡散しない）ため、安全に避難できる。

避難器具

避難はしご、救助袋、緩降機等、様々な種類がありますが、建物に設置されている器具は何か、その方法についても熟知しておかないと、いざという時に使用できません。また、簡単な外観点検であれば誰にでも実施できます。常に使用できる状態を維持することが重要です。



2 誘導方法

自力で避難できる人には、大きな声でどこからどこへ避難するかを指示します。ハンドマイクがあれば活用してください。また、ハンカチ等を鼻と口にあて、煙を吸わないよう姿勢を低くして避難するよう指示。対応できる人員の関係等により、一時に沢山の人数を誘導できない場合は、バルコニーや屋外階段の踊り場等があれば、一時的にそれらの場所に避難させた後、落ち着いて安全な地上へ避難させます。



3 搬送方法

誘導するだけでは避難できない人は、安全な場所まで搬送する必要があります。以下にその方法について掲げますが、対応できる人員や入所者等の状態により最も適した方法を選択して下さい。

【背負い】



1 人の人員で搬送可能ですが、背負われる人の体重と背負う人の体力により相違があります。

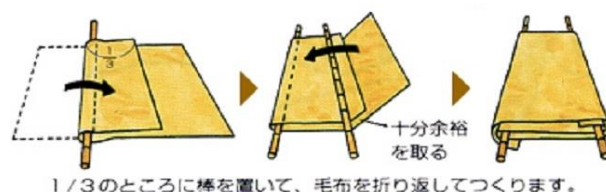
1 人～2 人で行う方法があります。

【抱きかかえ】



【担 架】

2 人～4 人の人員が必要であり、特に階段等を降る場合は、安全性を考慮して最低 4 人の人員が必要になります。布製のものもあります。担架がない場合は毛布による応急担架が代用できます。



【ベッド】

平面での移動は早いのですが、階段等の上下移動は非常に困難です。5～6 人の人員が必要になります。

【マットレス・布団・毛布・シーツ・椅子など】

担架がない場合は代用として使用できます。

訓練時に活用してみてください。

○ 搬送者が椅子の左右に付く場合

○ 搬送者が椅子の前後に付く場合

椅子を使った例→



★ 6 区画の形成と避難人員の確認

防火戸や防火シャッターがある建物では、出火エリア、出火エリアに隣接した区画、竪穴区画（階段室）等について、避難が完了し残留者の有無を確認した後、防火戸等を閉じることで火災の煙が他の区画に流れ込まないようにする必要があります。

最終避難場所では負傷者はいないか等について確認します。また、その日の収容人員が判明している施設については、人員点呼等により全員避難が完了したかどうか確認することができます。

★7 消防隊への情報提供

消防隊が到着したら、以下のような情報を提供してください。

また、必要であれば出火箇所への誘導を行ってください。

- ①全員避難したか？逃げ遅れはないか？
- ②負傷者はいるか？（何名？負傷の程度は？）
- ③出火箇所はどこか？何が燃えているか？燃えている範囲は？
- ④初期消火は成功したか？
- ⑤その他の必要事項

★8 訓練実施結果の検証

避難人員を確認し、消防隊への情報提供が終わったら訓練終了です。自衛消防隊長から管理権限者等に「総合訓練終了しました。」などと報告して訓練に区切りをつけましょう。その後は訓練実施結果の検証に入ります。検証内容については、概ね下記のような項目になります。

- ・要した避難に時間はどれくらいかかったか？前回の訓練と比べてどうか？
- ・通報は適切に行われていたか？
- ・消火器や屋内消火栓等の操作に不備はなかったか？
- ・避難経路は安全、適切であったか？
- ・避難誘導時や搬送時の危険性はなかったか？
- ・指示は的確に伝わっていたか？
- ・通報、消火、避難誘導の連携がスムーズであったか？
- ・その他必要事項

- ① 火災を想定し、関係者全員が無事避難できるよう体で覚える。
- ② 全員が無事避難できるよう、消防計画の改善をする。
- ③ 検証は次の消防訓練の実施に向け重要な事項です。



訓練お疲れさまでした！



119カード



通報は「あわてず」「はっきり」「正確に」

伝えることが、被害軽減の1番の近道です！！

火災通報マニュアル		
消防署		通報者
		あわてずに 119 番
はい、消防です 火事ですか？救急ですか？	→	火事です。
場所はどこですか？	→	(例：飯塚市菰田52-1 飯塚消防署) ※
発生場所の目標物があれば 教えてください。	→	(例：〇〇公民館〇〇側) ※
何が燃えていますか？	→	例：「隣の家が燃えています」 例：「施設内の食堂が燃えています」 (できる限り詳しく伝えてください)
負傷した人、逃げ遅れている人 はいませんか？	→	例：「3人います」 例：「いません」 例：「わかりません」
あなたの名前と 電話番号を教えてください。	→	〇〇です。 番号は090-0000-0000 (携帯電話が望ましいです)
わかりました。直ちに出勤します。 安全な場所で到着をお待ち下さい。		

※印には、あらかじめ住所、目標物を記載しておきましょう。

“消防車を呼ぶか迷ったときは、最寄の消防署へ問い合わせください！”

飯塚消防署(22-7602) 片島分署(23-2211)

嘉麻分署(57-0399) 桂川分署(65-0321)